

書目合編卷之二

佛道年刊

仙臺芻狗道人著

佛道手引草

東都

慶元堂

佛道手引草

皇風永扇

佛日增輝

新日語
皇風永頌

佛道手引草序

喜上之道通古昔修功純而多哉意乃
極悅主喜多矣悅乎亦母子ノ而
七道八達至自由也道以願滿修遊
於天垂宮室及仍遊於獄中而桂也

轍迹如知吾室虛也夫人之境界人天之
導師也不然乃愚夫愚婦所習之群生者
之毒害惑於心根五欲纏縛於身於夫
所以佛甲九年小大之悉說以降外
如今橫說以立說滿耳溢目矣豈

匆匆初老師者哀憐東里西衢天明
逐粒速像多少之衆庶而揭示我在
度區之乎今說有圖字之佛道手引車
者為志焉傳余命一譯置於卷
首焉嗚呼余老昧日積而胡說亂道

佛道子引草卷上
續三藏經

克方醫於木羅龍鳴子夜也備勿
作聞聲之會焉是以塞此賜命
而已
八十八老杜多

日文武三庚辰春三月

木羅子敬序



佛道子引草卷上

身狗子述

狗子深臥以きて北窓に坐せしむるあり
つふ人もあつてとていふもく

釋迦牟尼佛の支那の周の昭王のとき

天竺をもちて此のよとてとて百億の

國のひびきありて地獄の餓鬼畜生を

修畢の人や天をあら六道に衆生を佛に

續三藏經

恩德成不ひひくはせりふあせりて支那六
年とてて漢漢入明帝永平七年四月
八日金人殿達ふふふ夢みふふふ
禁惜等十八人天竺ふけり佛法
もふふふは摩騰竺法蘭二法師
より支那不佛法とてはふふふ佛乃
經像白馬之跡て月支國よりふたふて

生れしちむひきたる經像を獻て明帝
はふふふ佛寺を造り白馬寺と
名づけ騰蘭とて佛經を翻譯せしむ
ふふの教宗老子以道成とありふ五嶽八山乃
道士儲善信等七百餘人を遣り佛法を
傳傳ふりて永平十四年正月十五日
明帝はふくは白馬寺ふふふ百官ふふ
ふふふ三壇成とて東に道成尺書を

以てと云ふ西よ佛入經像成しと云ふ中より
供物成たると云ふは火と云ふはちと云ふは道
書蘇らちと云ふは焼亡し佛入經像五色は
いなり成るなり清くなりと云ふなりなり
天より寶花成るなりと云ふなりなりなり
明帝いよく崇敬しなり百官はよく悦服し
いなりなりなりなりなりなりなりなりなり
なりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
なりなりなりなりなりなりなりなりなりなり

のまゝ、前空の劉焯、後宮に除夫人等二百三十
餘人僧せりなりなりなりなりなりなりなり
白馬寺の門に入りなりなりなりなりなりなり
後漢の永興二年桓帝治すなりなりなりなり
と云ふ佛塔成りなりなりなりなりなりなり
宮中に入りなりなりなりなりなりなりなり
世人金銀と云ふ佛入塔像なりなりなりなり

元魏ノ宣武皇帝以延昌年中中云々云々列
郡の佛寺一萬三千餘所僧尼云々
二百萬云々 胡太后太后大寧寺寺

皇宮宮に云々石窟窟と伊闕闕乃
か云々金像像云々云々
一丈六尺尺中人人の云々金像十
三三玉玉以像像云々云々
六丈丈最上上層層云々云々

十里里云々云々魏書書不見見此此時時天下下北北國國南北北
之之間間南南黃黃梁梁ノ武帝帝以以云々云々梁梁此
六宮宮以以皇后后云々云々夫人人等等僧僧姑姑法師師云々云々
云々云々慧慧約約法師師云々云々我我とと行行
云々云々此此四四萬萬八八千千人人ありあり梁梁乃乃別別郡郡云々云々佛佛寺
二十八八百百四四十十六六箇箇所所僧僧尼尼八八萬萬三三千千人人ありあり
梁梁寺寺云々云々見見也也

隋ノ文帝帝以以云々云々帝帝位位云々云々云々云々

終南の舊宮氏龍曲寺を破し、高祖のたふす
まう年く三月六日天下に人々を饑生まうとて禁食
を命じしは、故に陳氏を破し、たふす
とてひ壁壘氏をふす、まうのたふす
たふす、まうのたふす、まうのたふす、まうのたふす
まうのたふす、まうのたふす、まうのたふす、まうのたふす
弘濟寺、劉武周氏破し、まうのたふす、まうのたふす
宋金剛を破し、まうのたふす、まうのたふす、まうのたふす

宋氏破し、まうのたふす、まうのたふす、まうのたふす
まうのたふす、まうのたふす、まうのたふす、まうのたふす
陳曇首を破し、まうのたふす、まうのたふす、まうのたふす
破し、まうのたふす、まうのたふす、まうのたふす、まうのたふす
たふす、まうのたふす、まうのたふす、まうのたふす、まうのたふす
餘所僧氏度をもあや一萬七千餘人をあや、まうのたふす
隋末に義成を破し、まうのたふす、まうのたふす、まうのたふす
たふす、まうのたふす、まうのたふす、まうのたふす、まうのたふす

進しやすすみらら御殿諸寺僧尼等は正月七日晝夜のつひに佛經講きのめ風雨の時災とのおこした年の例に依りては建隆元年九月李重進武信は原陵の戦地を寺に改めては建隆元年九月十六日軍士以て少らふも二月十六日

京師を都縣の名を有徳の僧等は法とまま聖説法祝せした日年十人の僧以て度を乞ふはりては金剛經を寫す日に讀誦して人の兵書以ておもてはむむたらむむ太宗六年太平興國元年に位を授けりし在位の僧と度を乞ふはりし十七萬人餘を有し佛經院をたて佛經疏を譯しては先宰相をたて佛經の調文

使多し唐入佛にありき

南宋は高宗を天下擾乱す所は、
之を金山寺に任持充翻經をて法界を
圓悟禪師を師にす。京師に諸寺を金
光、金光明、明延、入藏、成世、
郡州、報恩、孝寺、成、
尤の世裡忽た烈ふは、
佛教は天下

はまはくふありし毎歳をて、
僧氏度、十萬、僧氏ありき、
十萬僧、法成、
八苦のわらふを、
十高僧、
高僧、命、
天下、
版、

議乃のそめりて、宋學士廉公のそめりて、宗師と
如記を以て、兩高僧を命じて、般若心經を金剛經を
楞伽經を以て、三經を法を以て、九つをたゝりて、天下に
二つを以て、のふ。太宗は永樂五年、雲谷
奇公を以て、皇考を祀りたはる。香度大齋、以
て、ふけ、天然に僧、尚師を命じて、天を以て僧と
いひ、わてをふくして、十四日、あひひ、天花慶
雲等、入瑞、あらはせ、さる、諸の臣、ゆゑ、以て、

賀し奉ふ。太宗は、秋、う、い、う、釋、丹、心、以、

以て、佛、曲、入、宮、中、に、歌、舞、を、し、む

今、以、清、北、秋、乃、滿、洲、を、出、て、天、下、に、領、を、頒、治、

皇帝、支、那、の、主、を、躬、親、乃、も、の、密、雲、禪、師、以、

宮、中、に、之、を、以、て、佛、法、を、聽、聞、し、を、以、て、五、箇、

月、を、以、て、康熙、皇帝、遂、て、天、下、に、一、統、を、以、て、

支、那、四、百、餘、州、を、十、六、省、を、以、て、其、省、を、以、佛、寺、以、
て、天子、を、以、尊、位、以、て、不、以、て、以、明、日、を、望、日、と、以、

大小の官人みな佛者といふありて禮儀を行ふて
都多し禁裏に朝をふらふありて故に佛者と
多しやふありて行儀を可なりとす

夫十六國六朝五代遼金のころより天下と一統
等なりしより唐高祖漢高祖明帝永平十年
佛法の支那にわたるなりとす國にひくは
君高祖太宗より世に佛道とす
養元より唐高祖より世に佛道とす

劉勰の皇朝を論ずるに先述にせしむるありて
夕のありてを論ずるに先述にせしむるありて
先祖よりわたりて佛道は君も臣も二三年に乃
ちらふにほらるるありてを論ずるに先述にせしむるありて
日本八人王三十代欽明皇帝十三年十月十
三日百濟國王よりきて釋迦の尊像ありて
經論及び佛の像も此より佛法のもとありて
百濟王は表よりてて佛法の無量に福徳あり

天皇祈禱ありて乃ち天降るる神を以て
天竺より三騎とて天降るる尊故せしむる
を以て皇帝は乃ち天降るる神を以て
在りて三十二年冬置前不國宇佐の郡の
民家此兒年三は公なる託して我を護國
あり弟十六主譽曰天皇廣幡八幡が我を護國
靈驗成身神大自在玉菩薩を以て諸州諸聖
跡成神明なるは此地坐すのん

宇佐の八幡は桓武天皇の御代なり

故達皇帝二年正月聖德太子誕生なり
慈恩禪師以再身すと觀音菩薩の應現を
太子傳等と見えしを欽明皇帝第四子用明
皇帝は乃ち諸王乃ち此太子なり
推古天皇位は乃ち聖德太子は天皇
子也なり 二年辰春太子に勅して佛法僧と
たふして 四年辰法興寺代まを

神皇正統記

會氏もあけり、乃雲花蓋はあせり、
塔をうゝ殿はたわぶ變して五色たわぶ龍
鳳乃智恵ら存あわし、十二年乙未太子十七條の
憲令氏はや、天下にそへり、日本は朝廷乃
禮士農工商の素葬祭婚禮はとあひ人れ
かまけり、またそめり、其事元憲令
佛法僧の三寶、氏乃はく、信をまゝ、氏をそへり、
ク、そへり、三寶、そへり、そへり、何ぞそへり

柱氏直りせん、十三年に文六の釋迦とそへり
二菩薩の像、氏鑄り、銅、氏まゝ、ゆゑあせり、
二萬三千二百、黄金、八百兩あり、高麗乃王、
あせり、氏そへり、黄金、氏そへり、そのあせり、
支那の高僧善尼たわぶそへり、日本乃僧尼
支那ふゆき、留學、そへり、佛法年、月、日、
ひ、そへり、天子公卿乃佛寺、氏そへり、供養を
そへり、あせり、あせり、あせり、あせり、

孝徳皇帝乃五年た文六の佛像とぬひまゝ
乎二十代佛像成造ふ齊明皇帝以五年に
都下の諸寺に五箇金經成りし奉_レ也
勅して七世に父母に報せしむ 六年五月
仁王護國經成宮中成りし奉_レ也百の製佛と
百の沙門とありし

持統皇帝以九年秋八月三百の沙門と九佛乃
製成成りし天子は忘齊と京に諸貴

もふけりし八年以五月金光明經成天下ふ
流布し佛の年三月く_レの天大寶格と
ひそひたふありし法國に代年報成りし奉_レ也
僧_レ有り奉_レ也

元正皇帝以養老六年十一月京都五箇の
諸寺ふとふし僧尼二千六百三十八人に齊成

聖武皇帝以天平二年に奈良の興福寺と行州

藤原皇后より藤原房前の大僧正の文武乃
百官及びきいて材成ひき基とたいうけりふ
天平十年ふえつちのまじりのたうくく去年
天下に諸州より佛堂といふもの佛像佛經及び
とくふとて風雨ほあふふといふ五穀ゆたふ
熱風雲驗ひくたふとせし佛事を中心と
いふとて天下に諸州月々六齋日八日十日十二日十五日放生
する政あつて天元もなりあれ去年六十六箇國より

國令寺院より釋迦の尊像とて大板板經成
水とて寺とてとほりてなりひ空真性長久國家安全と
いひのせりふふなりなり 天平十三年三月令て

天皇天下法をもたつての國々四天王尊像成
とて金光明最勝王經とて妙法蓮花經と
各一部は寫さしむ 天平十九年竺香樂ふ
十六又此毘盧舍耶の銅像成てありしとて
ふのそのやをたいてて天下法をもたははるもの

朕有り天下は勢は持たざるは朕有り此富を
勢やんばそこの徳設と爲れんやんばそこの徳を
あむるやんば此佛像をなむるは朕のたむるは
此朕の徳を天下に布くは朕の徳を天下に布くは
行基菩薩の命に天下に士庶の徳を布くは
あはれとなすは天下に天平二十年は天皇天孫を
三千八百人の僧度しは天皇の徳を布くは
二十一年九月佛の僧三千八百人の僧度しは

二十二年十月一萬五千七百餘燈と金鐘寺不
と也し十六丈の盧舍那佛度しは
二十四年十二月僧尼の千人の僧度しは
天平勝寶五年四月東大寺の僧尼の僧度しは
鑑真律師を志すは聖成皇帝皇太后
皇太子公卿の僧尼の僧度しは
餘人あり天下に鑑真律師の僧尼の僧度しは
四萬餘人を志すは天平寶字二年は招提寺の

孝行をたぬく五年正月下野州乃薬師寺
築堂以觀音寺と名け中國に或は菩提寺と
名け佛戒をうけ東國に民を薬師寺と名け
佛戒をうけ西國の民を觀音寺と名け佛戒を
うけ天下に民をたぬくは佛戒をうけ
佛戒をうけ

歷代其皇帝は六僧をたぬくあり佛戒を
うけ多々ふりたぬく四十五代聖武皇帝は位を

たぬくは後僧をたぬく佛戒をうけ
勝滿をたぬく四十六代孝謙皇帝は位を
たぬくは後尼をたぬく佛戒をたぬくは法の
法基をたぬく五十六代清和皇帝は僧をたぬく
佛戒をたぬく五十九代宇多天皇は僧をたぬく
佛戒をたぬくは法をたぬく空理をたぬくは十
四代圓融院は佛戒をたぬくは法をたぬく是れ
たぬくは十五代華山院は僧をたぬく佛戒をたぬく

佛統系圖
卷之七
十七
新編 皇朝通志

法統系圖
卷之七
十七
新編 皇朝通志

佛統系圖
卷之七
十七
新編 皇朝通志

堂にありて輝尊と云ひ迦葉阿難等十六弟を以
儀と云ふまゝ温室にて人ほりて千人乃
坊にありては心より患病の人未だ浴しを給ふ
膿血を吸ひてまひをよむるなりしに
而して患病の人を治す阿闍梨とありて
光明に照らしてかくみたり感也如意尼に
淳和皇帝此妃を以て天長五年二月十八日
二人や橋の親守と云ふ人摩尼を以て

尼を以て佛き成けりて日々に如意輪観音を以て
誦し辨才天女廣田明神等の降々ありてを
感也三歡子後冷泉院に皇后ありて日法は平
経成りて皇帝崩しりて後醍醐天皇を佛成
りて小野の難宮ありてを佛成りて
常壽院と云ふなり如蔵尼平以持門の
第三女ありて姿色うれしなり塔を以て
を信するものありて國を以て佛成りて

卷之五のりや一日病て氣は元阿王宮ふ
由し地蔵菩薩ら女妖のまじり闇まじり
ひまじりていとも此女堅信なり女形なりとて
いへども欲事成るるを本まじりて阿王
を殺すといふなりとて菩薩の女妖とて
門出でていとも人身へまじりて佛教をひ
かるし一心に精修するや女をばつとて
あまじりて尼をぬく法の石蔵如蔵をばつ

地蔵の名稱は持きり鎌倉に尼持軍師の
俊術法師と傳戒成りて鬼神の支那乃
東晋代墨墨法師は一日男子の谷安
人やひやつとていふもの二十人たりて五戒以
わふ法師の神をばつとて女をばつとて
付る壇をばつとて三歸五戒をばつとて
神をばつとていふなり

晋代道生法師石蔵の地蔵をばつとて

經氏等してかく我いふを以て佛心なるべしや
 いふ所を以ての教を乞ひての石の如くいふく人
 阿多等てううを以てしけふ
 晉代惠遠法師廬山上東北寺次を以て居る
 山神を以てて其意成るを以てて神の如く
 たりて道をもてしけふ人其夜感當を以て
 阿多等てううを以てしけふ人其夜感當を以て
 桓伊は神異成るを以て天子に奏し寺ありぬ

隋代智者禪師玉泉山に佛寺成りておまう人
 ありては蜀の前代將軍胡則ありたりて
 寺成りておまう人ありては蜀の將軍胡則ありたりて
 良材を以てして七日少くす寺なり其く其
 ありて神巧なるを以てては支那の寺院
 日本武蔵の寺關羽氏漢法神なりては漢代
 ありては蜀の將軍胡則ありたりて

唐以法聽法師嘉興縣有法也其人氏
度毛わ天時神乃高王也いふ者五祝と降る
心しく我ふふと聽法師氏稱して菩薩戒を
うたふてんたやんたかたをたるを聽法師氏
稱して神と菩薩戒をうたふてんたかたを
盛んに降していふ今も後酒肉をよみ五戒
をわくまのたてたかたし福徳いのふあや
らけは僧衆を廟とまわす一齊とまふけし

後二年ふと海邊縣の神もよみ五祝とくはつて
心しく我をなと聽法師氏とやうしては樂經を
わくまふたふと神乃とまはのこしく法師とまわ
るまふたふと神もよみ五祝とくはつて心しく
神道比業生がわく苦惱なり法成まふまふ
身の辨申れうまの細虫のくろくわの向もやみ
福うまふといま一度我もまふ法師をまわす
涅槃經成わくまふたふたふたふたふたふた

唐以法聽法師嘉興縣有法也其人氏
度毛わ天時神乃高王也いふ者五祝と降る
心しく我ふふと聽法師氏稱して菩薩戒を
うたふてんたやんたかたをたるを聽法師氏
稱して神と菩薩戒をうたふてんたかたを
盛んに降していふ今も後酒肉をよみ五戒
をわくまのたてたかたし福徳いのふあや
らけは僧衆を廟とまわす一齊とまふけし

神皇正統記卷之四十一
神皇正統記卷之四十一
神皇正統記卷之四十一

神皇正統記卷之四十一
唐の元球禪師高僧乃をせふわさふと見
一日異人あつたわさうえ白つてまはるるつら
くわさひまきくまはつたおわしあつて
ひくく我をた殺神をあり師の戒戒もせむ
身をたぬくし弟子をたぬくすたはらぬか
爐火中て心腹をたぬくひくく五戒
さけむんともよくそもせんをたぬく

くわさひまきくまはつたおわしあつて
ひくく我をた殺神をあり師の戒戒もせむ
身をたぬくし弟子をたぬくすたはらぬか
爐火中て心腹をたぬくひくく五戒
さけむんともよくそもせんをたぬく

神皇正統記卷之八
神武天皇
神武天皇
神武天皇

皇帝とよひ上皇東大寺よりかきし百官人々
志のわひ種々伎樂氏をわしをす十八丈乃
大像氏より五千の沙門氏ありて法事と
とよひのふく法日八幡大神を敬むら杜女
託しす東大寺より大像氏あり人々ふ
王臣人々より大像寺ありをまわ
まの釋の行敷武内入大臣は齋をう負觀
元年中佐法八幡の神祠ふりて一長九十日

世にも流く大衆衆とよみ夜密元とよむ
一長九日ちてゆ先と居なく太神の流く大
法施とよく師度とむとあやとよはきと
師いよ王城とわらは我もきよとよむわら
王城とよむとよむとよむとよむとよむ
行教とよむとよむとよむとよむとよむ
師とよむ我もきよとよむとよむとよむ
とよむとよむとよむとよむとよむ

おかしき事ありしを尋ねて、あつて、
ひねりて、此の事いふ小の事、
行教を、
妻、
祠、
数人、
わや、

弘仁七年、弘法大師、高野山、の、
多、
故、
あ、
か、
は、
師、
弘法大師、

佛地... 三十一

いぬふくは福地ありあはふ佛寺といふ
所きふ大師唐より来りて法成はくく元和元年
八月日本にわへりんきて物さうわふり日千一
銘并成るるてふのさういも宮敷日本
健きけふふは銘并に自靈区さうめ
を最もあ日本ふむりひさうさふけをゆめ
んさう雲のうむはあふいささは銘并
すふばら松尺枝たわさうりてはさうて

神女乃のふらむむさりもはるは
奏聞して金剛峯寺祇園神女丹生
明神をりて此本の住吉春日等入神明の
佛法はき元多不明證をきくわは
危のりて高佛の世いもはさうてはくふ
いすもたさうて梵天帝釋日天子月天子諸の天
を返くは神もさうての龍鬼さうては
佛法成守護を説天堂のふちをわんて

三十一

あまはうもふまはう。あけつてきるをうらむ。
佛は八滅し、夕ふのら二十六年にて、後漢が
明帝は永平十年に、法支那ふきき、佛
八滅の後、一十五百十年より、欽明帝は十三
年に、日本ふら法い、支那日本は、皇太后
公卿百官まき、幽冥の鬼神無情の福を、ま
佛法は、歸業を、ふらま、百分うら、二
分、いらま、ま、あ、の、み、成、古、書、う、ら、ま、

あまはうもふまはう。あけつてきるをうらむ。
人支那、そも天下は、一統して、有り、子孫を、
傳く、後漢の、世、十三帝、一百九十五年、を、
元魏は、天下、一統を、い、ち、も、三分、を、有ら
十二主、百四十九年、を、あ、隋は、子孫、未、の、
い、ち、も、天下、ひ、く、六朝、十六國、を、
み、を、き、一、統、を、
二十二帝、二百八十八年、を、
宋は、十六帝、三百十

住僧の佛戒とうも十三主八自筆のふんじりた
天龍寺にあり物に於てあへのあてあり
いはれ大將軍家乃佛法代崇敬しきまうふ
うや、天下に見よまうまうなほあり
東照神君の明命にまう、神家儒家よりそのせ
りへまうも葬祭を佛家代法にまういひまう
らま、前代未聞の憲令なり
佛法代まう人、わがはにまうまう、君臣文相まう

三たて四より、たつ、老親の太武皇帝、太平、真君
六年、高臣崔浩、まう、免まう、沙門をまう
誅し、まう、佛像を、佛經を、或や、わが
まう、まう、崔浩、まう、五年、とる、他のつ、入、成
まう、まう、五族、まう、誅、まう、元太武帝、六年、成、合、て
まう、まう、まう、文成皇帝、まう、まう、まう、まう、佛、寺
佛經、佛像、或、復、まう、民、の、出家、と、まう、まう、太祖、い、け、
五帝、の、まう、まう、銅、の、佛、像、一、丈、六、尺、の、まう、五、つ、まう

佛經代崇敬しきまうふ
三十一
論三

大覺金仙をりの事をり羅漢六仙人大をり
 僧或德士ももやり危成女德士をり寺成
 宮中に在り院を觀るを佛法成を道法を
 ぬり高志方往ふ京城に洪水等流天を志休堂
 志志心のゆゆままおおささ先三むむきき志志志志志志
 君臣おかいしたた志志志志志志志志志志志志志志
 僧伽大士錫杖志志志志志志志志志志志志志志
 志志志志志志志志志志志志志志志志志志志志

おのむむ冬十月休堂志志志志志志志志志志志志志
 志志志志志志志志志志志志志志志志志志志志
 然然志志志志志志志志志志志志志志志志志志
 志志志志志志志志志志志志志志志志志志志志
 五代の周乃世宗皇帝顯德二年三月乙未の日是
 天下乃勅頒給ふき寺院志志志志志志志志志志志志志志
 觀世音乃銅像成を志志志志志志志志志志志志志志
 月を乃入志志志志志志志志志志志志志志志志志志

高祖位不降也。佛法成を爲中を奉きりて其
 日本ハ皇帝於佛法廣く奉り奉ふ事
 敏達天皇十三年二月大臣守屋佛法行ふ
 りしに成りて其後より大野より成りて其
 も成りて塔廟成りて塔餘の佛像成難波に在り
 其後より去年志便法師成度奉り善信檀越
 慈善成三死と申事成りて其後成り六月敏達
 天皇十三年二十四日乙未朝に於高祖天皇天皇十三年成

金なり他の罪ともて謀りて其物部成り成りしに

高倉院治承三年に大臣清盛奈良の東大寺興福
 寺成火と成り成りしに成りしに成りしに成りしに
 成りしに五年に成り重盛我平氏成り成り成り成り成り
 成りしに宋國の佛寺に黄金成り送り平氏の一族乃
 追善成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り
 義仲の兵成り成り清盛も成り成り成り成り成り成り成り
 成り成り平氏成り成り成り成り成り成り成り成り成り成り

うきを、東大興福の三寺に復す。佛像も聖武
天皇帝にほくらせり。ふつひのやく復す。

天正のころ、織田信長甲州へ、慧林寺にやま借
三十餘人、成山門のくへふやまの道をも、五六十年
なごり、明智光秀をたしめり。ふひやくは
織田氏にゆめがたふ。

わつふ、うほくく、わつあやく、支那日本、天子
公卿、しん佛道にまをえ、あふ人、身をたすひ

子孫、わつうく、はくえ、破産する人、あふ、其身、子孫も
そを、まうちふ、が、はくえ、を、せ、あやく、し、鏡、よ、影、り、
う、はくえ、の、あやく、く、あやく、ら、わめ、り、佛、は、佛、も、ま、う、
涅槃、よ、いつ、ま、あ、あ、あ、く、ま、ま、ふ、二、七、七、七、八
年、め、り、あ、あ、あ、ま、ま、ま、か、あ、あ、あ、く、は、あ、あ、あ、あ、
佛法、を、いつ、め、り、珠、勝、乃、カ、徳、あ、あ、あ、也、我、は、あ、あ、あ、
わ、あ、あ、あ、あ、我、も、信心、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、
佛道、を、引、草、巻、乃、上

五言古詩
五言古詩

烟江七秋成之

張